

「油井小学校の油井の豊年踊り伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立油井小中学校

2 学年・人数

小2：1名，小4：2名，小5：2名，小6：1名 計6名
中1：2名，中3：1名 計3名 総計9名

3 日時・場所

(1) 練習の日時

平成30年9月～10月 総合的な学習の時間（本校各教室・体育館）

(2) 発表の日時・場所

平成30年10月27日 町子ども島口・伝統芸能大会（きゅら島交流館）

平成30年11月1日 ふれあい給食（本校体育館）

平成30年11月4日 学習発表会（本校体育館）

平成31年1月12日 奄美オーケストラ鑑賞会（本校体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

油井ほうねんおどの豊年踊り

(2) 由来

旧暦8月15日に行われ，その由来は明らかではないが，豊年を神に感謝するとともに，更なる豊年を祈願する姿を，古式豊かに今に伝える民俗芸能であり，昭和58年に県の無形民俗文化財に指定された。

(3) 構成等

ミャーとよぶ広場を舞台に，微笑をたたえた表情の紙面カミンをつけ，土俵を田んぼや臼に，人間を摺り臼や杵に見たて，稲作の作業過程をユーモラスに演じる。

〔演目〕 1. 綱切り 2. 振り出し 3. 土俵祓い 4. 前相撲 5. 稲刈り

6. 稲すり 7. 米つき 8. 力めし 9. 観音翁の土俵見舞い（ヒギフッシュ）

10. チクテン 11. 玉露カナ 12. ガットドン 13. 結び相撲 14. 打ち止め

5 保存会や地域との連携の具体

子どもたちが，年度当初に，今年は何の演目をやるか，自分は何の役をやるかを話合って決め，本物を見たり，ビデオを見たりして練習を始める。5～6割がた仕上がったところで，保存会や保護者に週に1回程度（計3回程度）指導をしてもらい，仕上げる。また，保存会が，年間を通して週1回程度，三味線やチヂンの指導を行っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

子どもたちが自分たちの地域の伝統芸能の伝承について，強い興味や誇りを持って意欲的に取り組めるように，保存会会長から話をしていただいたり，子どもたちの主体性を大切に事前の話合いに時間をかけたりしている。また，先輩から後輩へと踊りや三味線を確実に受け継いでいけるように，次年度の見通しを持たせる声掛けをしている。

7 取組の様子



練習風景



子ども島口・伝統芸能大会発表



学習発表会



奄美オーケストラとのコラボレーション

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

《教員》

- この取組も3年目だが、話し合いで役割を決める進め方や、上級生が下級生に教える姿勢などが定着してきて、望ましい形になりつつあるし、全てにおいて上達が見られる。また、あらゆる場で褒められることによって子どもたちの自信につながっている。
- 2学期になって、毎週水曜日の放課後に三味線教室をしていただけるようになり、どんどん上達すると共に、太鼓の子どもたちも積極的に参加している姿が素晴らしい。

《保護者》

- 女の子が3人しかいないということで、サンバラ役で2名、保護者が出させてもらったが、自分たちが日頃やったことのない役だったので、緊張もしたし、勉強にもなった。学校や子どもたちの役に立てたことがうれしかった。

《保存会》

- 子どもたちが年を重ねるごとにどんどん上手になっており、教えることがあまりないぐらいです。地域文化を一生懸命伝承してくれている姿に毎年感動しています。少ない人数ですが、これからも頑張ってもらいたいと思います。
- 三味線に対して、難しくてもあきらめずに頑張ってくれるので教え甲斐がある。これからは、弾きながら歌える指導もしていきたい。